

こどもまんなかTEENSカイギ 実施報告書

令和7年12月

特定非営利活動法人河原部社

結果の概要	2
活動	2
集める（もやもやインタビュー・電子アンケート）	2
もやもやインタビューの実施の手順.....	2
電子アンケートの実施の手順.....	3
話す（ワークショップ）	5
ワークショップの実施の手順.....	5
開く（もやもやずかん）	7
もやもやずかんの実施の手順.....	7
結果と考察	8
集める（もやもやインタビュー・電子アンケート）	9
もやもやインタビュー.....	9
学校・部活・受験.....	10
人間関係.....	11
家庭.....	11
地域の居場所.....	11
ネット・スマホ・SNS.....	12
交通.....	12
各トピックのまとめ.....	12
電子アンケート.....	12
話す（ワークショップ）	13
ワークショップ.....	13
開く（もやもやずかん）	14
もやもやずかん.....	14
学校・部活・受験.....	15
家庭.....	15
地域の居場所.....	15
ネット・スマホ・SNS.....	15
交通.....	16
各トピックのまとめ.....	16
もやもやインタビューおよび、もやもやずかんにおける8分類トピックの比較.....	16
各活動の総括.....	18
まとめ	19
荏崎市青少年育成プラザMiacisにおける意見反映の実際と留意すべき基本的な考え方	20
荏崎市青少年育成プラザMiacisにおける意見反映の実際.....	20
意見反映の活動の際に留意すべき基本的な考え方.....	20
参画のはしご.....	21
子ども参加のための9つの基本的要件.....	23
参考文献	25

結果の概要

様々な境遇に置かれる中高生世代の子どもたちの、より多様でリアルな意見を集めることを目的として「こどもまんなかTEENSカイギ」と題し一連の活動を実施した。

- 期間：令和7年7月23日（水）から令和7年9月21日（日）まで
- 場所：韮崎市青少年育成プラザMiacis（ミアキス）
- 運営：特定非営利活動法人河原部社
- インタビュー参加者数：57人
- アンケート回答者数：23人
- ワークショップ参加者数：15人
- 参加型掲示物（もやもやずかん）投票数：135票

活動

「集める」・「話す」・「開く」の3つの段階に分けて活動する。「集める」の段階では子どもたちに対しインタビューやアンケートを実施することで様々な境遇の子どもたちの意見を集めた。「話す」の段階では「集める」の段階のインタビューやアンケートの結果を元に子どもたちが複数人で議論し更に意見を深堀りした。「開く」の段階では「集める」や「話す」の段階で得られた意見を元に参加型の掲示物としてワークシートを作成し、インタビューやワークショップに参加できなかった子どもたちにも改めて幅広く意見を聴いた。

集める（もやもやインタビュー・電子アンケート）

子どもたちが日常的に利用する施設という利点を活かし、スタッフと子どもたちの会話の中に抱える問題や意見・考え（もやもや）を聴き取る「もやもやインタビュー」を実施した。また「もやもやインタビュー」の結果を踏まえ更にWeb上でも意見を聞く「電子アンケート」を実施した。

もやもやインタビューの実施の手順

韮崎市青少年育成プラザMiacis（ミアキス）が開館している時間で各スタッフが子どもたちと交流したり会話する中で抱えている問題や意見・考えを聴く。普段の交流の延長線上で、あくまでもリラックスした雰囲気の中で子どもたちの話を聴く。スタッフは、学校や学年の偏りが無いように、多くの子どもたちに声をかけて会話を試みる。簡単な挨拶や、うわべだけの会話では話が深まらないことがよくあるので、子どもたちの負担にならない範囲で様子を見ながら粘り強く会話を深堀りする。スタッフは、聴いた「もやもや」を閉館後に日報として報告する。

電子アンケートの実施の手順

もやもやインタビューの結果を元に、意見をトピック別に6種類に分類した。6種類のトピックは以下の通りである。

- 学校・部活・受験
- 人間関係
- 家庭
- 地域の居場所
- ネット・スマホ・SNS
- 交通

6種類のトピックを元に、代表的な意見を設問に記載し、回答する子どもたち自身が同様な事態に直面することが「全くない」から「とてもよくある」までの5段階で評価する以下のような電子アンケートを作成した。また、それ以外に具体的な意見や考えがあれば併せて回答できる設問も設置した。

みんなの「もやもや」アンケート

1. お住まい

⊙ Dropdown

1 つだけマークしてください。

- ☐ 荏埜市内
☐ 荏埜市外

2. 学校

1 つだけマークしてください。

- ☐ 荏埜東中学校
☐ 荏埜西中学校
☐ 荏埜高校
☐ 荏埜工業高校
☐ その他: _____

3. 学年

1 つだけマークしてください。

- ☐ 中1
☐ 中2
☐ 中3
☐ 高1
☐ 高2
☐ 高3
☐ その他: _____

学校や部活、家庭の「もやもや」

4. 学校や部活で理不尽な理由で怒られたり、生徒によって対応が違うと感じることがありますか？
例：先生のミスなのに自分が怒られたり、特定の生徒だけがひいきされているように感じる。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

5. 校則や部活のルールが理不尽だと感じたり、納得できなかったりすることがよくありますか？
例：スマホの持ち込み禁止、部活の上下関係の強要、生徒の意見が反映されないなど。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

6. 学校や部活、塾などで自分の意見や希望が聞いてもらえず、不満を感じることがよくありますか？
例：部活の日程が一方的に決められている。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

7. 学校や部活、勉強などが忙しすぎて、自分のやりたいことや勉強に集中できないことがよくありますか？
例：友だちとも遊びたいのに勉強が忙しすぎて遊べない。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

8. 大人の都合やルールによって、放課後の過ごし方や休日の行動が制限されることがよくありますか？
例：寄り道せずにすぐ帰宅するように言われたり、遊びに行く場所や時間が細かく決められている。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

人間関係やSNS、地域の「もやもや」

9. 友だちや先輩・後輩などとの人間関係で悩むことがよくありますか？
例：コミュニケーションのすれ違いで友だちとの関係が崩れてしまった。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

12. ニコリやミアキスなどの学校外で使える場所に使いにくさを感じることがよくありますか？
例：学習室がいつも一杯で使えない。家や学校などから遠くて利用しづらい。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

13. その他の「もやもや」
その他にも、普段から「もやもや」していることがあれば教えて下さい。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

10. SNSの投稿やネットの情報を見て、自信をなくしたり、不安になったりすることがよくありますか？
例：友だちのSNS投稿の内容に傷つく。他人と比較して自信を無くしてしまう。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

11. 歩いたり自転車に乗っている時、危険を感じたり、肩身が狭い思いをすることがありますか？
例：車が自分勝手に走っていて危ない。歩いていて車に轢かれた。

1 つだけマークしてください。

1 2 3 4 5
全く ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくある

話す（ワークショップ）

「話す」の段階では、複数人の子どもたちが集い、子どもたち自身の抱える問題や意見・考えをワークショップの形式で深掘りした。

ワークショップの実施の手順

ワークショップ実施のために以下のワークシートを作成し使用した。

子どもたちは始めに自身の抱える問題や意見・考え（もやもやエピソード）をワークシートに記載されたカテゴリーを参考に考える。次に全員のワークシートを回収し、ワークシート記載者と別になるように配り直す。子どもたちは、配られたワークシートに記載された、もやもやエピソードを読み前向きになれるようなアドバイス（ポジティブアドバイス）を書き込む。これまでの内容を全員で共有し関連する意見等を自由に議論すると共に話を深める。最後に、ここでの議論を踏まえた参加者それぞれの考えをワークシートに記載する。

【中学生】東中 西中 市街

【高校生】蕨高 工業 市街

【学年】1年生 2年生 3年生

タラレバ

—あなた**だったら**、わたし**であれば**、その**モヤモヤ**どうする？—



このゲームでは、あなたの「〇〇**だったら**」を、わたしの「〇〇**であれば**」で
前向きに解決していきます！みんなで考える時間を大切にします！

1) あのとときのわたし、これに迷っていたなあ！困っていたなあ！という**モヤモヤエピソード**を1つだけ書いてください。

【例】

- ・2週間前にあった学校のテストのときに、問題頼れる大人が身近にいないで困った。
- ・昨日であった部活のときに、友達と喧嘩して仲直りの方法がわからない。

カテゴリを選択 学校 部活 受験 家 ミアキス 同世代の人間関係 その他

難
易
度



※「カテゴリ」と「難易度」にそれぞれ○をつけてください

2) あなた**だったら** 1)の**モヤモヤエピソード**をどのように解決やアドバイスをしますか？

前向きになれるようなことを2つ書いてみよう！

3) 2)をみて「**今のわたしだったら**」できそうなこと、気づいたことや、改めて考えたこと、感想など
好きなことを3つ書いてみよう！

開く（もやもやずかん）

「開く」の段階では「もやもやずかん」と題した参加型の掲示物を作成した。「集める」の段階の「もやもやインタビュー」をトピック別に分類した結果のうち、子どもたち自身が共感するトピックにシールを貼ることで投票する。更に、スタッフとシールを貼ったトピックについて会話しながら意見や考えを深掘りする。

もやもやずかんの実施の手順

以下のようなワークシートに、各トピックの見出しと、子どもたちが、より各トピックを理解しやすくするために、もやもやインタビューの結果から各トピックで代表的な意見を例として記載する。子どもたちは、自身が共感するトピックにシールを貼ることで投票することができる。



もやもやずかん

どんな「もやもや」に共感する？投票してみよう！

学校：授業や課題が多くてついていけない、先生の理不尽な対応や校則など、学校生活に不満を感じることはありませんか？

人間関係：友だちや異性の言動に悩んだり、気持ちがすれ違ったり、言いたいことが言えなかったりすることはありますか？

受験・進学：受験勉強や塾が負担になっている、進学について悩みを抱えているなど、将来に不安を感じることはありませんか？

家庭：家に帰りたくない、居心地が悪いなど、家が安心できる場所じゃなくなっていることはありませんか？

ネット・SNS・スマホ：SNSでのやり取りや、スマホの使いすぎで疲れてしまったことはありませんか？

地域の居場所：ニコリが家から遠くて使いづらかったり、中高生の公共施設の利用に制限があるなど、学校や家以外に使える居場所が無いと感じることはありませんか？

部活：部活のルールや顧問の先生の対応に疑問を感じたり、部活が忙しすぎる・少なすぎると不満を感じることはありませんか？

交通：歩行者への車のマナーが悪かったり、自転車に乗っている時に危ない目にあったりするなど、通学や移動に不便や危険を感じることはありませんか？

その他：

シールで最大4つの場所に投票できます。

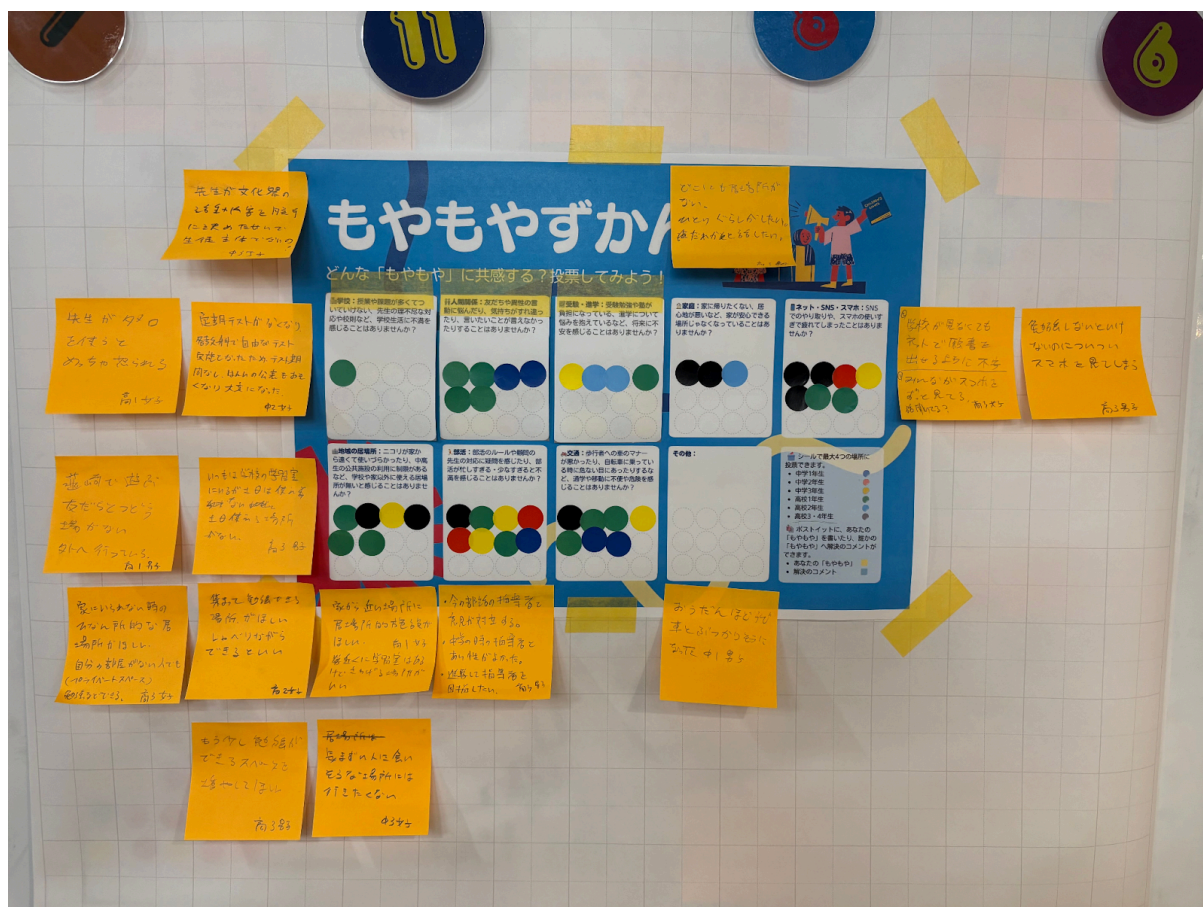
- 中学1年生
- 中学2年生
- 中学3年生
- 高校1年生
- 高校2年生
- 高校3・4年生

ポストイットに、あなたの「もやもや」を書いたり、誰かの「もやもや」へ解決のコメントができます。

- あなたの「もやもや」
- 解決のコメント

子どもたちは学年別に色分けされたシールで1人3トピックまで貼ることができる。但し1人が1つのトピックに複数のシールを貼ることはできない。

スタッフはシールを貼ったトピックについて「どうしてここにシールを貼ったの？」などと問いを投げかけ、更に子どもたちの意見や考えを深掘りする。聴き取った内容は、主にスタッフが付箋紙に書き留め、以下のように該当するトピックの近くに貼っていく。



この手法の利点は、ワークショップなどの時間的拘束の長い活動に参加のハードルが高い子どもたちでも、ミアキスの入退館のタイミング等を利用して非常に短い時間で子どもたちの負担が少なく参加できることである。

結果と考察

各活動で得られた内容を総合すると、意見のトピック別に以下のような結果となった。

1. 学校・部活・受験：47.5%
2. 人間関係：18.1%
3. 家庭：10.6%
4. 地域の居場所：8.9%
5. ネット・スマホ・SNS：8.4%
6. 交通：6.4%

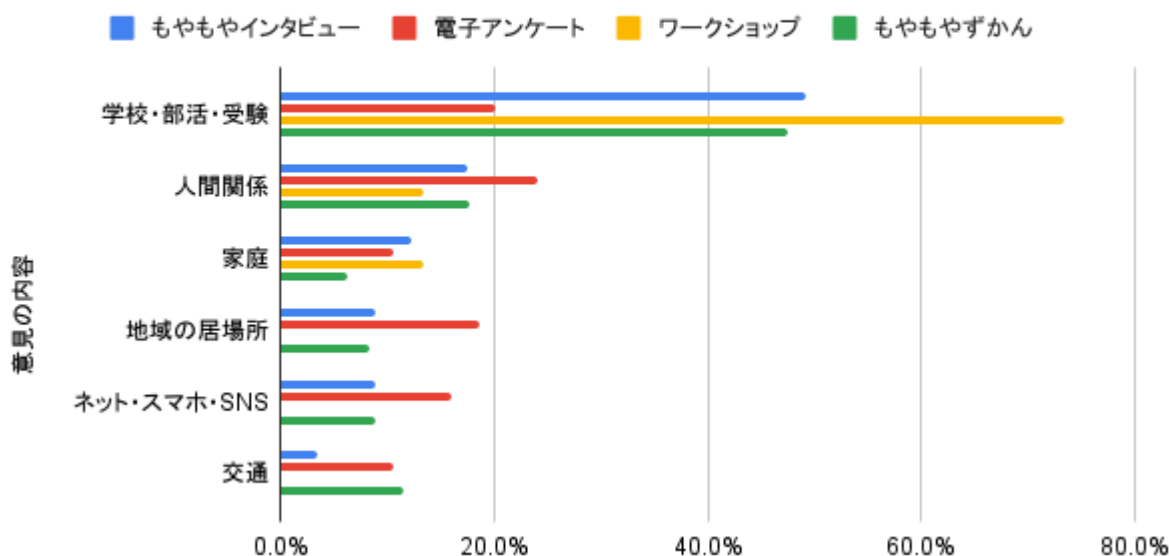
「学校・部活・受験」の割合が47.5%と最も高い。「学校運営への不信感」や「学業や課題等の圧迫」といった問題に起因するもので、子どもたちの心身の健康に大きく影響を与えていると考える。

「人間関係」の割合は18.1%と2番目に高い値となっている。意見は友人関係などの日常的な内容だが、学校や家庭などの既存の居場所における大人との関係性の貧しさが背景にあると考える。

「地域の居場所」の割合は家庭に次いで8.9%となった。「地域の居場所」は「学校・部活・受験」で指摘した課題と「人間関係」で指摘した大人との関係性の貧しさに起因する問題を緩衝材（バッファ）として和らげる機能を果たしていると考えられる。

なお、各活動別の結果は、以下のグラフの通りである。

もやもやインタビュー、電子アンケート、ワークショップ、もやもやずかん



集める（もやもやインタビュー・電子アンケート）

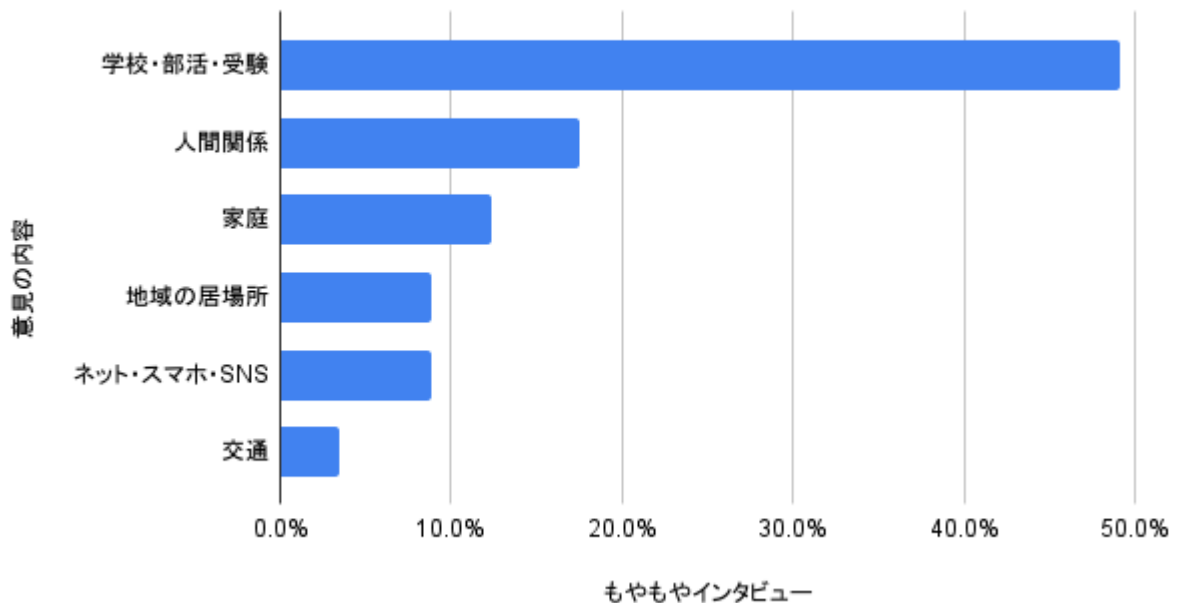
もやもやインタビューは7/23（水）から8/28（木）までの間に57人が参加した。意見の多い順に、学校・部活・受験（49.1%）、人間関係（17.5%）、家庭（12.3%）、地域の居場所（8.8%）、ネット・スマホ・SNS（8.8%）、交通（3.5%）となった。

電子アンケートは8/23（土）から8/28（木）までの間に23人から回答があった。「よくある」「とてもよくある」と回答した割合は多い順に、人間関係（24.1%）、学校・部活・受験（20.1%）、地域の居場所（18.7%）、SNS（16.1%）、家庭（10.5%）、交通（10.5%）となった。

もやもやインタビュー

もやもやインタビューで寄せられた意見は、以下のグラフの通り「学校・部活・受験」に関するものが最も多く、次いで「人間関係」「家庭」に関するものが続いた。これらの分類に基づき、各トピックの代表的な意見を以下の通り報告する。なお括弧書きとしてインタビューの際の聞き取り内容の一部を支障のない範囲で記載している。

もやもやインタビュー と 意見の内容



学校・部活・受験

「学校・部活・受験」のトピックでは、学校生活や進路に関する不満やプレッシャーが挙げられた。ここでは「学校運営への不信感」・「学業と課題等の圧迫」・「子どもたちの主体性の軽視」の3つに分けて報告する。

まず、「学校運営への不信感」に大別される内容として、以下のような意見が報告された。

- 学校の相談対応への不信（嫌がらせを受け先生に相談したが何も対応してくれず隠蔽されたという声）
- 先生の理不尽な叱責と不信感（先生の手違いで伝達がうまくいっていなかったのに自分が怒られたという声）
- 部活顧問の判断ミス（怪我をした時に顧問が軽傷だろうと救急車を呼ばなかった、大会も全く治っていない状態でも出場させようとするという声）
- 理不尽な退部（部活の先輩とのいざこざで顧問の先生に後輩の自分が辞めさせられたという声）
- 顧問の態度が原因で部活が楽しくないという具体的なトラブル（顧問の先生の口が悪く怖いという声）
- 教師の性差による対応の違いへの疑問（先生が男女で対応を変える、特定の性別にのみ対応を変えているという声）

次に、「学業や課題等の圧迫」に大別される内容として、以下のような意見が報告された。

- 学校独自の教育プログラムによる学業の圧迫（学校のカリキュラムが忙しくて辞めたいと思うことが多いという声）
- 塾の強制スケジュールによる疲弊（本人の希望は聞かれず、強制的に塾側が決めたスケジュールで行かないといけないうのがしんどいという声）
- 課題等の過多による体調不良（バタついたときにタスクを抱えすぎて嘔吐したという声）

- 受験勉強と学校課題の板挟みで精神的に落ち込む子どもたちの声（受験勉強がしんどい、家に帰ると親に受験のことだけをぐちぐち言われるという声）
- 課題に追われる苦悩（課題が終わらないから参加したい活動に参加できないという声）
- 出席日数重視の入試制度への不満（テストの点数は高かったのに色々な事情で中学の時の出席日数が足りなくて第一志望校に落ちてしまったという声）
- 高等教育の修学支援制度の限界（制度を受けるには親の扶養内に入っていなければならない勤労学生がいることが前提とされていない制度だという声）

最後に、「子どもたちの主体性の軽視」に大別される内容として、以下のような意見が報告された。

- 生徒会活動の限界と自主性の欠如（生徒会で提案しても何も聞き入れてもらえないとの声）
- 学校行事の改善案（文化祭で学年ごとにやるのが既に決まってしまう。別の活動もできればいいのにという声）
- 課題の提出期限等に関して納得感を求める意見（夏休みの、ある課題だけがなぜか提出期限が早いことに納得できないという声）

人間関係

「人間関係」のトピックでは友人関係における複雑な感情の葛藤が挙げられた。友人や男女関係に振り回されたり、価値観のズレによる絶縁や、日常のコミュニケーションに悩む意見も見られた。このトピックで報告された内容は非常に個人特定性の高い内容のため、具体的な内容は記載しない。

このトピックの意見は子どもたちが日常を過ごす中で、ごく一般的な内容だが、分類される意見の割合は多く、子どもたちのニーズの高いトピックとなっている。一方で日常の一般的な相談をミアキス以外で行えていないものとも推察され、結果として学校や家庭等の既存の居場所での大人との関係性の貧しさが示されていると考える。

家庭

「家庭」のトピックでは、進路や生活習慣に関する保護者との関係性によるストレスが挙げられた。保護者の過干渉と放課後の自由を求める意見や、特に受験や進学等において、親からのプレッシャーが大きく疲れを感じている意見（自習室にいる時間や学校にいる時間を親に管理されるという声）、進路選択に関して親からの否定的な言葉を受け、悩む生徒の意見（一般入試で受験したいが親の意向で推薦入試を受けざるを得ないという声）、家族内の摩擦に起因して家が安心できる居場所が無くなっているという意見（家に自分の居場所がなく帰りたくないという声）もあった。

「家庭」のトピックではあるが受験や進路選択に関連する意見が多く見られた。受験や進路選択のあり方が、子どもたちだけでなく家庭においても問題になっていると考える。

地域の居場所

「地域の居場所」のトピックでは、家庭や学校以外の「第三の居場所」に関する要望や不安が挙げられた。家出生徒が安心して過ごせる居場所の不安（家出している子の居場所がないという声）や公共施設へのアクセスの課題が地域的な視点から指摘（西中校区で中々こちらの方へ来れないため初めてミアキスに来たという声）があった。

ネット・スマホ・SNS

「ネット・スマホ・SNS」のトピックでは、子どもたちが抱く、ネット・スマホ・SNS等のデジタルツールの使い方に関する疑問が挙げられた。スマホ依存によるリアルな交流の希薄化（友達と遊ぶときにみんなスマホを見すぎているという声）や、スマホと勉強集中のバランスの難しさ（スマホが気になり勉強に集中できなくなるという声）といった、自己管理の課題に関する意見、SNSで感じる孤独や、他人との比較による苦しさ（SNSが自分と他人を比べるツールになってしまうという声）が心理的な負担となっているという意見が見られた。

これらの自己管理や心理的な負担に関する意見は、デジタルツール自体の問題に留まらず、学業への重圧や対人関係の希薄さといった、他の問題に起因している可能性を示唆している可能性がある。

交通

「交通」のトピックでは通学や移動における安全性と利便性に関する意見が挙げられた。徒歩・自転車利用時における家の周りや通学時の危険性（家の前の道路の交通量が増えて度々危ない目に合っているという声）や交通環境の課題（横断歩道で信号無視の車に轢かれかけたという声）が交通弱者である中高生の視点から指摘があった。

各トピックのまとめ

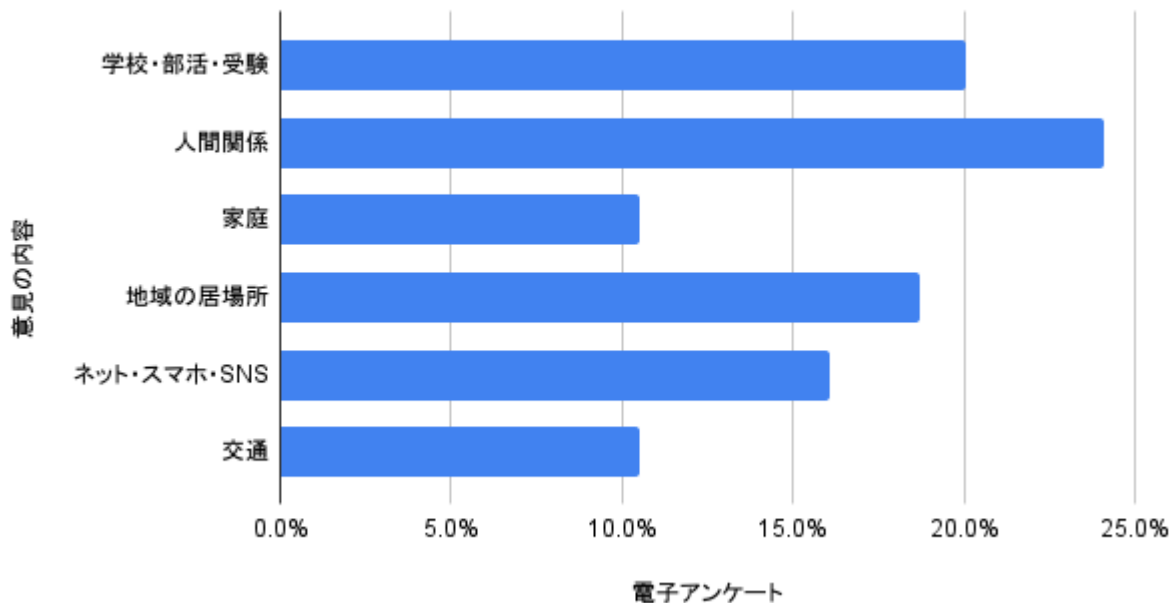
本インタビューの結果、子どもたちが抱える問題や意見・考えは、受験競争や学校運営への不信といった問題に起因するものが最も大きいことが分かった。特に「学校・部活・受験」の項目に寄せられた具体的な不満は、生徒の心身の健康にも影響を与えていることが伺える。

また、子どもたちは学校・家庭の両方で、安心して本音を話せるような大人との関係性に乏しい傾向が見られる。地域の居場所等の学校外の環境改善も重要であると言える。

電子アンケート

電子アンケートで寄せられた意見は、以下のグラフの通り「人間関係」に関するものが最も多く、次いで「学校・部活・受験」「地域の居場所」に関するものが続いた。このアンケートでは各トピックを5段階で評価するため、基本的に1つのトピックしか話さないインタビュー等の手法と比べると偏りが出にくい結果となっている。

電子アンケートと意見の内容



また自由記述欄には、学校の意見箱の内容に対して改善の兆しが見えない無力感を感じる意見や、家族から性別に対する固定概念（ジェンダーバイアス）の押しつけから感じるストレス、回答者自身がヤングケアラーであり、ヤングケアラーに対する支援不足を訴える意見が見られた。

匿名性の高い手法を取り入れることにより、他者に開示しにくい意見を集めることができる可能性が示された。但し中高生世代は電子アンケートにアクセスできる端末利用に制限が生じている可能性も考えられるため、アクセス性と匿名性を両立した手法の検討が必要と考えられる。

話す（ワークショップ）

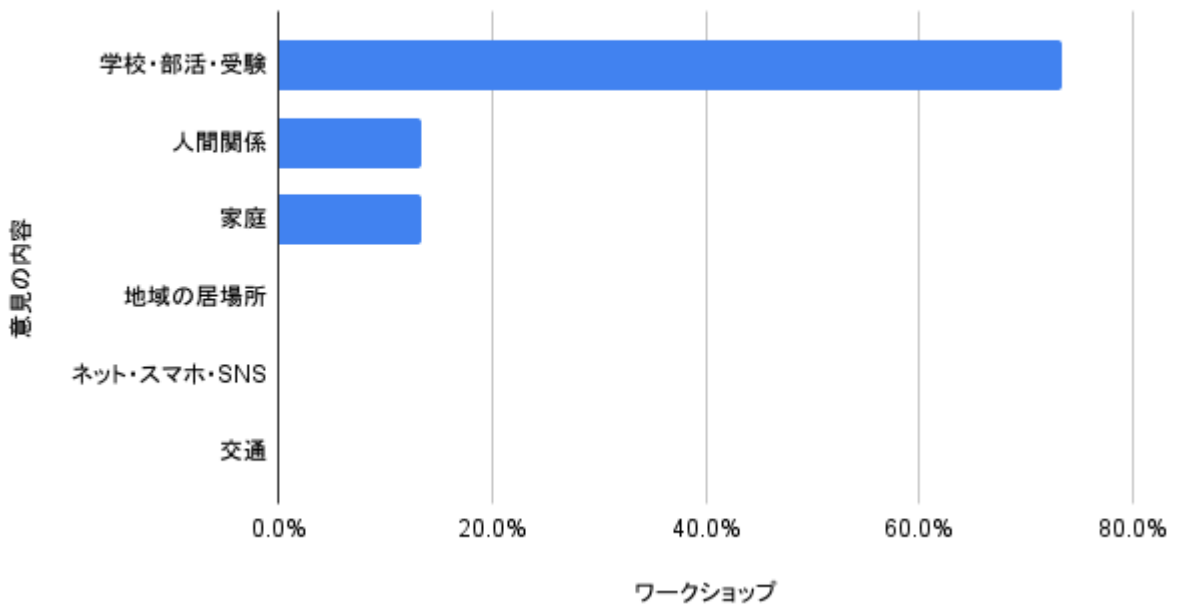
ワークショップは8/20（水）から9/24（水）の間に全5回で開催され15名が参加した。ワークショップの中の意見の内容としては、多い順に学校・部活・受験（73.4%）、人間関係（13.3%）、家庭（13.3%）となった。

ワークショップ

ワークショップで寄せられた意見は、以下のグラフの通り「学校・部活・受験」に関するものが最も多く、次いで「人間関係」「家庭」に関するものが続いた。「地域の居場所」

「ネット・スマホ・SNS」「交通」に関する意見は無いが、傾向としては、もやもやインタビューの結果と同様となった。ワークショップの形態上、一つのワークショップでのトピックが似通った内容となる傾向が強いため、トピックに偏りが生じたものと考えられる。更に、ワークショップへ子どもたちが一人で参加するハードルは非常に高いため、参加の難易度を下げ、より多くの子どもたちに参加してもらうためには、友だち同士など関係性の近い子どもたちのグループを中心とした実施形態となり、似通った内容の意見が生じる可能性をより高めるものと考えられる。

ワークショップと意見の内容



意見の傾向としては主に学業・進路への不安や不満と、部活動における困難や人間関係、学校・部活以外の個人的な人間関係の摩擦や孤独感に起因する意見、家庭内における身近な家族との摩擦に関する意見が挙げられた。

ワークショップでは参加者本人が自身の意見を言語化する能力にばらつきがあることから、参加者によっては非常にあいまいな内容となってしまうことがあった。また前回の課題と同様にワークショップ自体の拘束時間が長く非常に参加者を選ぶ側面が大きいため、より参加者へのハードルの低い、もやもやインタビューや、もやもやずかんといった手法で代替することで、より多くの子どもたちの参加のしやすさを担保できるものとする。

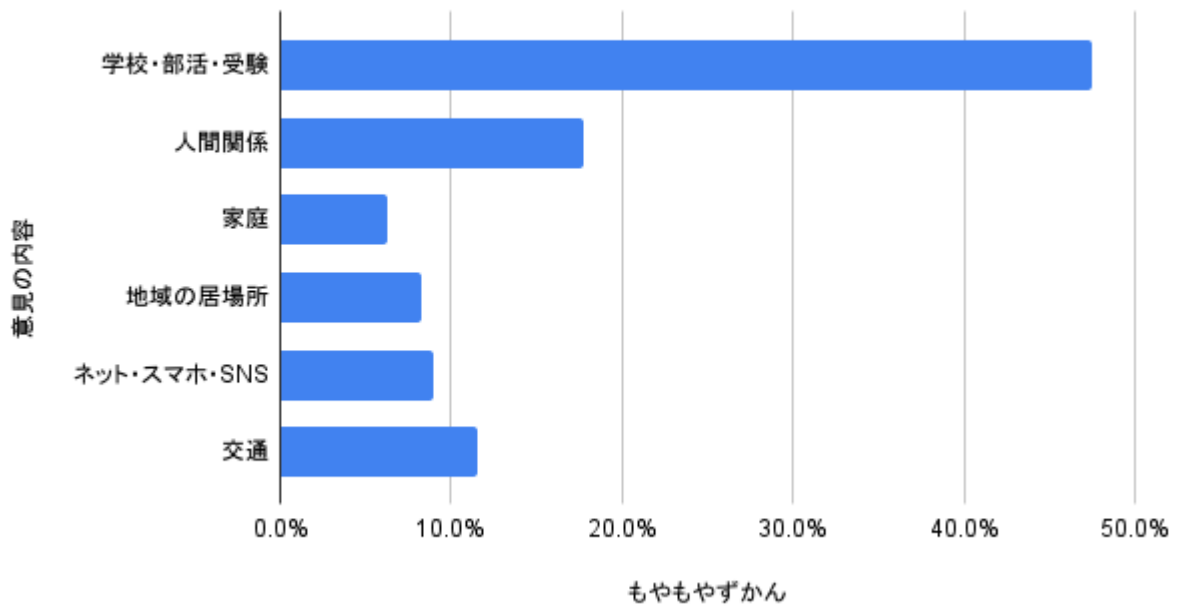
開く（もやもやずかん）

もやもやずかんは9/7（日）から9/21（日）の間に全3回で実施した。意見の多い順に、学校・部活・受験（47.5%）、人間関係（17.7%）、交通（11.5%）、ネット・SNS・スマホ（8.9%）、地域の居場所（8.3%）、家庭（6.3%）となった。

もやもやずかん

もやもやずかんで寄せられた意見は、以下のグラフの通り「学校・部活・受験」に関するものが最も多く、次いで「人間関係」「交通」に関するものが続いた。全体の傾向と比較して「家庭」の割合が低い原因としては、もやもやずかんは掲示を伴うワークシートとなるため、他者へ開示を避ける内容が相対的に少なくなる可能性が考えられる。これらの分類に基づき、各トピックの代表的な意見を以下の通り報告する。

もやもやずかんと意見の内容



学校・部活・受験

「学校・部活・受験」のトピックでは、生徒主体の活動への疑問や不満として、学校行事の内容を先生が勝手に決めたことへの疑問（生徒主体でない）や、部活動の指導者との意見の対立、学習環境・制度の変化への戸惑いとして、定期テスト廃止によるテスト期間の消滅や範囲公表の遅れによる負担増などの意見が挙げられた。

家庭

「家庭」のトピックでは、家庭内の居場所の欠如として「家に居場所が無い」「一人暮らしがしたい」という声や「誰かと話したい」というコミュニケーションへの強いニーズが挙げられた。

地域の居場所

「地域の居場所」のトピックでは、居場所の不足として、荏苒市内に友達と集まる場所が少ないため市外へ出ていることや、土日や夜間の居場所不足とニーズとして、学校の学習室が使えない土日の居場所、家にいられない時の「避難所的な居場所」の要望、自分の部屋やプライベートスペースがない人のための場所の要望が挙げられた。また、多様な学習・交流スペースの要望として、集まって話しながら勉強ができる賑やかな居場所のニーズや近隣に学習スペースの増設を求める声も挙げられた。

ネット・スマホ・SNS

「ネット・スマホ・SNS」のトピックでは、自己コントロールの難しさとして「勉強しないといけなのについついスマホを見てしまう」コミュニケーションへの疑問として「みんながスマホをずっと見てる。話聞いているか疑問に思う」の意見が挙げられた。

交通

「交通」のトピックでは、「横断歩道で車とぶつかりそうになった」という、具体的な交通安全に関する意見も挙げられた。このトピックは、もやもやずかんにおいて比較的高い割合となった。その分析についてはインタビューとの比較の章で述べる。

各トピックのまとめ

各活動で挙げられた意見と同様に学校を中心とした、生徒主体性の尊重とルールに関する意見が顕著に見られると同時に、子どもたちが安心して過ごせる、物理的・心理的な地域の居場所の必要性を強く示唆していると考えられる。特に学習と交流の両方ができる居場所や、プライベートを確保できる避難所的な居場所という、多様なニーズがあることが分かる。これらの意見は、単なる不満ではなく、子どもたちが学校や家庭に対する意見を補完するための具体的な改善提案と捉えることができる。

もやもやインタビューおよび、もやもやずかんにおける8分類トピックの比較

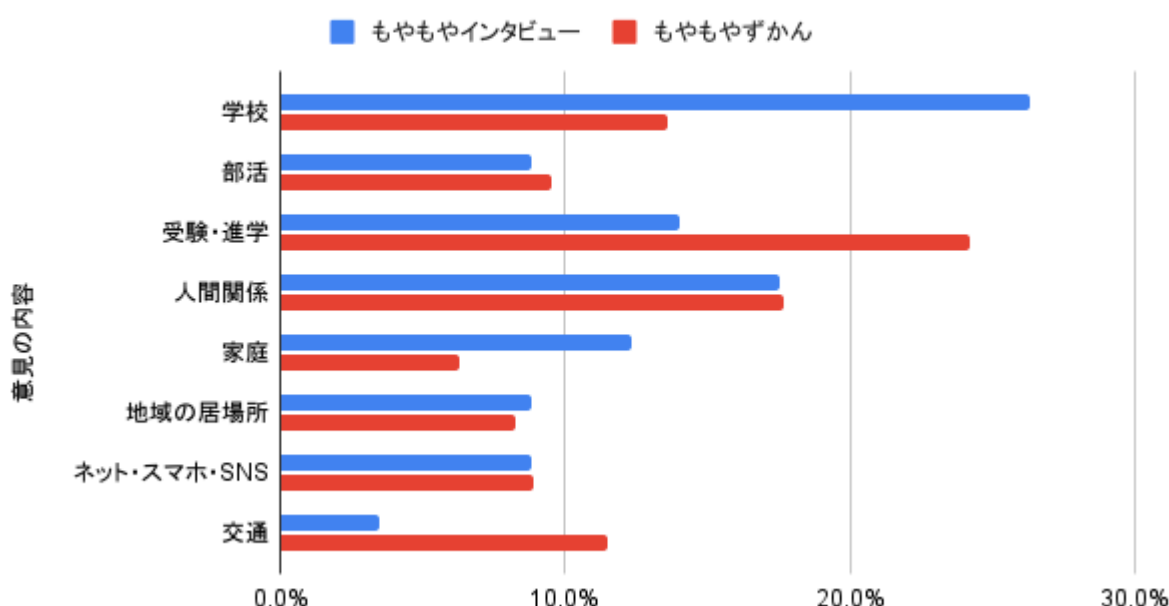
もやもやインタビューおよび、もやもやずかんでは、上記で紹介した6つのトピックをのうち割合の多い傾向にある学校・部活・受験のトピックを、それぞれ分けて更に8つに分類し分析を行った。

もやもやインタビューを8つに分類した結果は、学校（26.3%）、部活（8.8%）、受験・進学（14.0%）、人間関係（17.5%）、家庭（12.3%）、地域の居場所（8.8%）、ネット・スマホ・SNS（8.8%）、交通（3.5%）となった。

もやもやずかんを8つに分類した結果は、学校（13.6%）、部活（9.6%）、受験・進学（24.2%）、人間関係（17.7%）、家庭（6.3%）、地域の居場所（8.3%）、ネット・スマホ・SNS（8.9%）、交通（11.5%）となった。

また、上記の結果を以下の通り併せてグラフで示す。

もやもやインタビュー、もやもやずかん



グラフより、インタビューともやもやずかんでは特に学校、受験・進学、家庭、交通のトピックで大きな差異が見られる。以下の通り、これらのトピックで差が生じた要因を挙げる。

- インタビュー対掲示物：インタビューでは普段の会話をベースにトピックは指定されないのに対して、もやもやずかんは掲示物のため、自然と気になるトピックが目に入るため、トピックが明示されやすい可能性がある。
- 夏休み期間中对夏休み明け：インタビューの実施時期は夏休みの期間中与重なる。もやもやずかんは夏休み明けの実施となっている。特に受験・進学のトピックでは、夏休み明けの学校の影響等により子どもたちの心境に変化が生じている可能性がある。

また、前述の通り、家庭のトピックについては、もやもやずかんの掲示物のような形態の場合は他人への開示を避けるため割合が減った可能性がある。

交通に関しては、上述の通り、もやもやずかんでの割合に顕著な増加が見られる。交通というトピックは子どもたちにとって身近なトピックではあるが、子どもたちが外に出て自ら移動するようになってから（小学校で子どもたち自ら道路を歩いて通学するようになってから）長期間にわたり様々な危険な目に遭遇する中で「慣れ」が生じ、トピックを明示しない限り、その問題に気づきにくくなっている可能性がある。更に、大多数の大人が日常で徒歩や自転車を利用した移動を経験しない現代の地方においては、大人の側もこのトピックで報告される問題に気づきにくい可能性が高い。交通事故等は生死に関わる重要な問題であるが、その原因については上記で述べたように顕在化しにくい可能性があることをここで指摘したい。

各活動の総括

特に「学校・部活・受験」「家庭」「交通」のトピックでは、子どもたちが、その意思決定に積極的に関与できているとは言えず、大人の側に意思決定権が偏っているものと見受けられる。子どもたちの中には、この問題に対し意見を表明する者もいるが解決策が示されず無力感を感じている。このような仕組みの中では、子どもたちの手による現状打破は困難であり、理解ある大人の側から意見が反映される道筋をつくることが重要と考える。

また、その課題解決に向けては、目に見える局所的な原因だけに切り分けて対症療法的に介入することがよくあるが、結果として予期せぬ形で別の問題が再発する可能性を孕む。

- 例：学校で抱えるストレスが原因で不登校となっているのに、無理な登校の促しの結果、一時的には登校が再開され出席日数という数字が改善されるが、なぜ学校がその子にとって苦しい場所なのかという環境への問い直しが行われず、問題を抱えた教育制度が温存される。

更に、今回報告された各意見も一見全く別の内容のように見えても実際には互いに関連し合っていることもある。

- 例：家に居場所がないと訴える声は一見家庭の問題と捉えられがちだが、深く話を聴いてみると受験勉強に対する子どもたちと保護者の考えの相違により、子どもたちが家に居づらいと感じていることがある。従って、この問題は家庭に限った解決策を考えるだけでは根本的な解決にならず、併せて受験に対して子どもたち・保護者双方が感じているストレスを和らげるという意味で、競争的な教育制度も改善していくという方向性も含めて解決策を考えていく必要がある。

従って、子どもたちに意見を聴いて課題解決を目指す際には、目に見える局所的な原因だけに着目して解決策を考えるのではなく、その背景にある出来事を俯瞰して観察し、それぞれがどのように影響しあって、その問題を生み出しているのか大局的かつ長期的な視点で見極め、だれか一人の力でなく、その課題に影響しているそれぞれの関係者が歩みを揃えて解決策を探ることが重要と考える。

「人間関係」のトピックでは、子どもたちが日常を過ごす中で、ごく一般的な内容が報告されたが、このトピックの割合は大きく、子どもたちのニーズの高さが明らかとなった。一方で日常の一般的な相談をミアキス以外で行っていないという背景も垣間見え、結果として、学校や家庭等の既存の居場所では、更に大人との関係性の貧しさの問題も抱えているのではないかと考える。従って、学校や家庭等の既存の居場所で大人と十分にコミュニケーションを交わせるように、その背景にあると思われる、例えば競争的な教育制度等の関係する諸問題それぞれの繋がりを見極めた上で、根本的な解決を進めることが重要と考える。

加えて、全体として、学校や家庭等での大人との関係性の貧しさの課題に対し、地域の居場所であるミアキスがその緩衝材（バッファ）として機能し、子どもたちの精神的な負担を和らげる効果を持つことが明らかになった。現時点で既に生じている、学校や家庭等の既存の居場所における大人との関係性の貧しさの問題等のしわ寄せから、速やかに子どもたちを助けるために、日常で子どもたちがアクセスしやすい大人と気軽に話ができるような居場所的施設の選択肢を増やしていくことが重要と考える。

従って、今後の具体的なアクションとしては以下の2つの方向性に分けられ、これらを同時に進めていくことが重要と考える。

1. 課題の根本解決：大人の側に意思決定権が偏っている現状を打破し、子どもたちが意見を表明するだけでなく、それが反映される道筋を、理解ある大人の側から積極的につくり、課題を解決すること。特に学校や家庭等の既存の居場所を含め、柔軟かつ十分に子どもが大人と日常のコミュニケーションを交わせるように既存の仕組みを改善していくこと。その課題解決のためには、従来の対症療法的なアプローチでなく、複雑な問題の背景を大局的に見極めた上で、関係者が協働し、長期的な視点で課題を根本的に解決すること。
2. 気軽に話せる大人のいる地域の居場所のニーズへの対応：ミアキスのような気軽に話せる大人のいる地域の居場所的施設への子どもたちのニーズに応えることで、日常で子どもたちがアクセスしやすい居場所の選択肢を増やし、学校や家庭が抱える問題のしわ寄せから、物理的・心理的に子どもたちを助けること。

本事業では、様々な境遇に置かれる中高生世代の子どもたちの、より多様でリアルな意見を集めるという目的のもと、一部の子どもの意見に偏ることの無いように段階に分けて様々な形態の活動を実施してきた。各活動では、子どもたちそれぞれのニーズに寄り添い、安心して参加できるように、目的に沿って柔軟な変更を繰り返す必要がある。今後の事業実施に向けての改善点としては、当初に活動内容を固めきってしまう従来の手法から、活動期間中においても目的に沿って柔軟に内容を変更していくことを前提とした仕組みへの刷新が必要不可欠であると考える。

まとめ

今回の活動では、これまで表に出にくかった、韮崎の子どもたちの抱える問題やリアルなニーズを明らかにした。得られた意見の約半数が「学校・部活・受験」のトピックに集中しているという事実は、過度な競争を生む教育制度など、意思決定権が大人の側に偏る社会において、子どもたちの抱える無力感と心身の負担が深刻な水準に達していることを示唆している。

この課題を乗り越えるためには、大人が子どもたちの声を知るだけでなく、その声が実際に反映される道筋を保証し、従来の対症療法的なアプローチでなく、複雑な問題の背景を大局的に見極めた上で、関係者が協働し、長期的な視点で課題を根本的に解決する必要がある。また、今回報告された子どもたちの意見から垣間見える、学校や家庭等の既存の居場所における大人との関係性の貧しさという課題は、その背景にあると思われる、例えば競争的な教育制度等の、関係する諸問題それぞれの繋がりを見極めた上で、根本的な解決が必要だが、短期的には、現時点で既に生じているしわ寄せから、速やかに子どもたちを助けるために、ミアキスのような気軽に話せる大人のいる地域の居場所のニーズへ対応する必要がある。今、子どもたちの意見を知り、その解決に向けた一歩を踏み出せるのは、まさに私たち大人の側である。本報告書が、韮崎市の多様な関係者、行政、教育、地域住民それぞれが、理解ある大人の一人として協働し、大局的かつ根本的な問題解決の道筋づくりを進めるための、一つの切っ掛けとなることを祈念し、本報告書の結語としたい。

韮崎市青少年育成プラザMiacisにおける意見反映 の実際と留意すべき基本的な考え方

本報告書では子どもたちの抱える問題や意見・考えを解決するために大人側の地域の多様な関係者からのアクションの重要性について指摘した。具体的な実践の参考のため今回の活動を実施した韮崎市青少年育成プラザMiacis（ミアキス）での事例と共に、実際の子どもたちの意見反映の活動の際に留意すべき基本的な考え方を紹介したい。

韮崎市青少年育成プラザMiacisにおける意見反映の実際

韮崎市青少年育成プラザMiacis（ミアキス）は中高生世代の子どもたちが余暇の時間を過ごす、学校や家庭以外の第三の居場所的な公共施設として、平成28年10月に開館した。子どもたちは、閉館する夜の21時30分まで、スタッフと交流したり、友だちと話したり、卓球をしたり、ボードゲームをしたり、思い思いの時間を過ごす。

スタッフの主な役割の一つに、来館する子どもたちとの交流がある。その中で、子どもたちは日常から、それぞれが抱える問題まで様々な話題を自然な関係性の中で交わすことになる。

スタッフは勤務を終えるごとに、子どもたちとの交流の概要を報告する。スタッフは、その報告を元に全員でカンファレンスを実施してミアキスの1日を終える。日々の話題の中にはセンシティブで配慮が必要な内容が含まれることもある。日々の報告やカンファレンス等の内容をベースに、子どもたちに寄り添った対応を組織全体で考え、場合によっては施設の仕組みづくりから改善を加える。長期的には問題の根本的な解決を目指して組織内部だけでなく関係者を巻き込んだ提案を行っている。

意見反映の活動の際に留意すべき基本的な考え方

最後に、子どもたちの意見反映の活動でよく用いられる考え方としてロジャーハートの参画のはしごと、国連子どもの権利委員会の子どもが参加する際の9つの基本的要件を紹介する。

参画のはしご

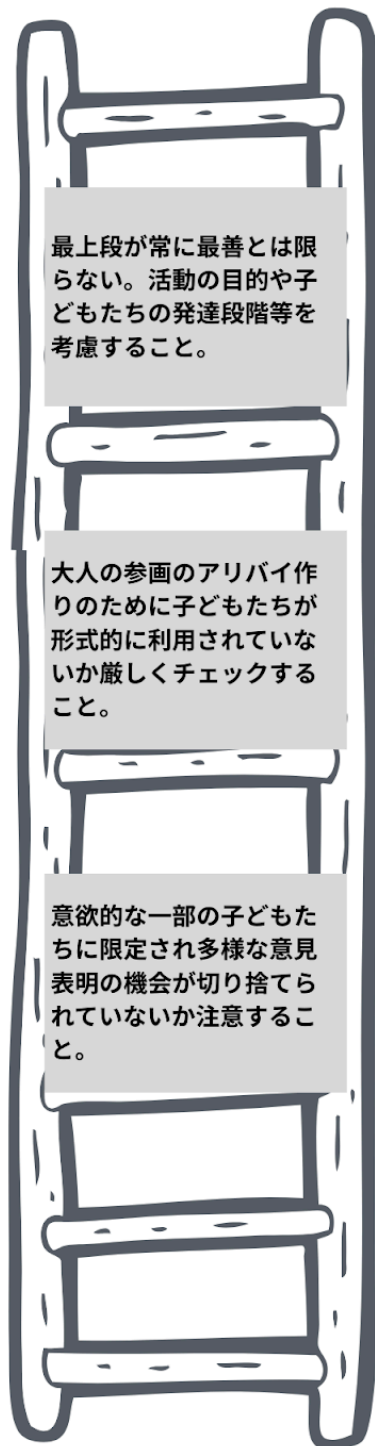
ロジャー・ハートの「参画のはしご」は、子どもたちや若者の主体的な参加をテーマとするあらゆる分野で用いられることが多いが、注意すべき点も多いため併せて紹介する。

ハートは「参画のはしご」によって、下位3段階の非参画の段階を排除し、子どもたちの主体性と意思決定権を尊重した真の参画を促進するため、はしごの上位5段階の参画の段階を目指すべき理想の状態と指摘した。子どもたちの意見を聴くことは、現によく行われているが、それが意思決定に関与しなければ、真の参画と定義することはできない。

この「参画のはしご」において注意すべき点としては、まず、「はしご」というイメージから、最上段が常に最善であるという誤解を生みやすい点が挙げられる。しかし、それは誤りであり、子どもたちの発達段階、プロジェクトの目的、および文脈に応じて、最も適切な参画レベルを選定しなければならない。

また、はしごの中間段階、特に形式的な参画の段階においては、子どもたちが大人の意図や目的を達成するためのアリバイ作りとして利用されていないかを厳しく検証しなければならない。子どもたちの意見や決定が、実際に活動の結果に実質的な影響を与えているかを常にチェックすることが重要である。

さらに、この「はしご」の上位の実践は、その活動に関心を持つ意欲的な一部の子どもたちに限定されがちで、元来全ての子どもの権利であるべき参画が、広く開かれたものとなりにくく、子どもたちの意見表明の機会が切り捨てられかねない。したがって、特定の一部の意欲的な子どもたちの声だけでなく、全ての子どもたちの権利としての多様な参画の形態を捉える視点を持つことが不可欠である。



最上段が常に最善とは限らない。活動の目的や子どもたちの発達段階等を考慮すること。

大人の参画のアリバイ作りのために子どもたちが形式的に利用されていないか厳しくチェックすること。

意欲的な一部の子どもたちに限定され多様な意見表明の機会が切り捨てられていないか注意すること。

子どもが開始するが、大人と対等なパートナーシップで決定・実行する。
Child-initiated, shared decisions with adults

子どもが活動の全てを主導し、大人は支援者として関わる。
Child-initiated and directed

大人が開始するが、計画や決定の権限を子どもと分かち合う。
Adult-initiated, shared decisions with children

大人のプロジェクトに対し、子どもが助言する。意見の扱いが明確。
Consulted and informed

大人が決めた活動だが、目的や理由が子どもに丁寧に説明されている。
Assigned but informed

意見は聞かれるが、決定には全く影響しない。
Tokenism

子どもがお飾りとして扱われる。意見は聞かれない。
Decoration

大人の目的に子どもが利用される。真の目的は説明されない。
Manipulation

参画の段階

非参画の段階

出典：Hart, R. A. (1992). Children's Participation: From Tokenism to Citizenship. Innocenti Essays, No. 4. UNICEF. をもとに筆者（安里）作成

子ども参加のための9つの基本的要件

国連子どもの権利委員会の「子ども参加のための9つの基本的要件」は、子どもたちが関わるあらゆる場や活動において意味のある、倫理的な子どもたちの参加を実現し、その質を確保するための指針として用いられる。子どもたちの参加を単なる形式的な活動や大人の自己満足に終わらせず、意味のある、倫理的で、質の高いプロセスとして成立させるために、大人側が果たすべき具体的な責任と基準を指摘している。

要件1と要件9では子どもたちの参加を形式的なもの（お飾り）で終わらせず、実質的で倫理的なプロセスにするため、意見を聞いた後の結果に対する大人の責任について指摘している。「参画のはしご」での指摘と同様に大人は、子どもたちの意見表明が単なる聞き取りで終わらず、大人の側の責任として実際の行動につなげられるかが重要である。

要件2から要件6では、すべての子どもたちにとって参加しやすい環境づくりが求められている。例えば本事業のように子どもたちの意見を集めるという活動であれば、様々な境遇に置かれる子どもたちに対し、平等に参加が叶うように、そのニーズに合わせて柔軟に対応できる仕組みを整えることが必要不可欠である。

最後に、国連子どもの権利委員会では日本が子どもの権利条約を批准した1994年以降、日本に対し4回の総括所見を採択している。これらの総括所見の中で2019年に採択された最新の第4回・第5回統合報告に至るまで、繰り返し「過度に競争的な教育制度」について指摘している。更に、過去の総括所見では「過度に競争的な教育制度」が、いじめ・精神障害・不登校・中途退学・自殺等の他の深刻な問題を助長している可能性について指摘されている。本報告書で子どもたちから指摘された課題とも、非常に関連が見られるため、併せてここで紹介したい。

子ども参加のための 9つの基本的要件

透明性があり、十分な情報がある

何のために集まるのか、どんな役割があるのかを、子どもたちがちゃんと理解できるように、わかりやすい言葉で伝えていること。(要件1)



任意である

参加するかどうかは、子どもが自分で決めていいこと。もし途中でやめたくなくても、いつでもやめていいこと。大人に無理やり誘われたりしないこと。(要件2)



尊重される

参加するときは、学校や遊びの時間など、他の生活も大切にすること。その子の文化や考え方も大事にすること。お家の人（保護者）にも協力してもらうこと。(要件3)



子どもの生活に関連している

話し合うテーマが、参加する子どもの毎日の生活に関連していること。子どもたちが「これをやりたい」と思ったことを応援すること。大人から押し付けたりしないこと。(要件4)



子どもにやさしい

集まる場所や話し合う方法が、子どもたちにとって安心できて、参加しやすいこと。年齢や得意なことに合わせて、参加の仕方を工夫すること。(要件5)



包摂的（インクルーシブ）である

性別、年齢、体のこと（障害）、生まれた場所などに関係なく、すべての子どもが参加できるようにすること。特に困っている子の声も大切に聞くこと。(要件6)



訓練による支援がある

子どもと関わる大人が、上手に話を聞いたり、話し合いを進めたりする方法をしっかり学んでいること。子どもたちも、意見を伝えるための練習ができること。(要件7)



安全であり、リスクに配慮している

子どもたちが危険な目にあわないように、しっかり守られていること。いじめや嫌なことが起こらないように、前もって対策を考えていること。困ったときに助けを求められる場所があること。(要件8)



アカウンタビリティ(説明責任)が果たされる

子どもたちが言った意見や考えが、その後の活動や決定にどう使われたかを、子どもたちにきちんと教えること。意見を言って終わりではなく、結果まで伝えること。(要件9)



出典：セーブ・ザ・チルドレン（2021）『子ども参加のための9つの基本的要件』をもとに筆者（安里）作成

参考文献

1. Hart, R. A. (1992). *Children's Participation: From Tokenism to Citizenship* (Innocenti Essays, No. 4). UNICEF International Child Development Centre.
2. 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン. (2021). 子ども参加のための9つの基本的要件: 意味のある、倫理的な子どもの参加のために.
<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/jireishu.pdf>
3. 国連子どもの権利委員会 (1998). *Concluding observations of the Committee on the Rights of the Child: Japan* (CRC/C/15/Add.90).
4. 国連子どもの権利委員会 (2004). *Concluding observations of the Committee on the Rights of the Child: Japan* (CRC/C/15/Add.231).
5. 国連子どもの権利委員会 (2010). *Concluding observations of the Committee on the Rights of the Child on the third periodic report of Japan* (CRC/C/JPN/CO/3).
6. 国連子どもの権利委員会 (2019). *Concluding observations on the combined fourth and fifth periodic reports of Japan* (CRC/C/JPN/CO/4-5).